

学校教育目標		人間性豊かな自立に向かう児童の育成～学びの自立・心の自立・生活の自立～			研究主題	学びの自立をめざして～自ら考え、表現できる児童の育成～			
項目	中期目標＜3年後の到達目標＞	行動指針＜3年間の取組方針＞	短期目標＜本年度＞	具体的な取組及び評価指標	達成状況	改善方策	自己評価	関係者評価書	評価
確かな学力	1 個別最適・協働的な学びの一体的な授業づくりの推進 ①授業力チェックシート3.3以上 ②全国・県版・市版学調：全国平均以上を継続する	○各教科、各単元で身に付ける力の確認、ゴールから設計する授業構成 ○語彙力・表現力の向上（漢字・用語の活用、読書指導、表現する場の設定） ○ICTの効果的な活用	①授業力チェックシート3.2以上 ②全国・県版・市版学調各学年前年度を1p以上上回る ⇒前年の資料がない学年（1年）、調査の種類が変わる（市版から県版、県版から全国など）学年があるため、目標を全国比以上に修正	・「学びウイーク」学期に1回実施 ・ブロックでの学習交流→表現する場の設定 ・ブロック研全員実施 ・タブレットやデジタル教材を効果的に活用した授業の推進を図る→ICT機器を授業で「ほぼ毎日」活用している教員の割合100% ・ICTの効果的な活用のための実践交流：夏季休業中に実施 ・学力調査の早期分析・共有・取組・取組の進捗確認	①授業力チェックシート3.2○ ②全国・市版（全国比以上）県版（県比以上） ・全国学調：6国○+0.3 6算○+0.6 ・県版学調：4国○ 4算▲ 5国▲ 5算○ 5理▲ ・安芸市版学力調査：全学年全国平均以上 1国○ 1算○ 2国○ 2算○ 3国○ 3算○ 6国○ 6算○ ○各校内研修計画通り実施 ○ICT機器の授業での活用「ほぼ毎日」活用100%	・学習指導要領に基づいた教材研究と教材分析力を高める研究の継続 ・表現力の育成（文章に書く・言葉で伝える） ・教員が見て学ぶ、見てもらって学ぶための「学びウイーク」の継続 ・学力の定着が難しい児童への支援（学習方法の検討・加力指導等） ・個別最適・協働的な学びの推進	B	・全国平均以上であるのは評価できる。目標値に達していない学年の原因分析を詳しく行う必要がある。 ・楽しい授業→わかる授業→さらに学びたいと意欲がわく授業を目指して個々に応じた地道な計画をより一層お願いしたい。 ・おおむね良好。更なる上積みを。	B
	2 家庭学習の充実 家庭学習調査： ①毎日宿題95% ②自主学習85% ③計画的に学習85%	○学年相応の量の調整 ○自主学習の評価活動 ○強化週間の設定	①毎日宿題90% ②自主学習80% ③計画的に学習80%	・家庭学習の手引きの作成と継続的な指導 ・家庭学習強化週間の設定（年2回） ・家庭学習調査の実施・分析→学年の目標時間を達成している児童の割合が増えている ・家庭学習におけるタブレットの活用範囲を広げる	①毎日宿題1学期86%→2学期98%○ ②自主学習77%→82.2%○ ③計画的に学習70%→87.5%○ ○1回目よりも2回目が3項目とも向上 ○各学年の目標時間達成も1回目より2回目が1%増加 ○家庭学習におけるタブレットの活用は、オフラインでのみ行っている ▲家庭学習カードの提出ができてない児童もあり、正確さに欠ける評価となっている	・家庭学習の充実を図るため、予習の仕方や自主学習の指導を行う ・タブレットを活用した家庭学習の充実を図る（市教委で環境整備されたのち） ・家庭学習強化週間の周知徹底を行う	B	・1学期から2学期への毎日の宿題及び自主学習の増加は評価できる。 ・目標達成がしっかりと認められる。褒める→認めてもらえる→意欲がわく→学力向上 子ども一人一人に応じた取組を引き続きお願いしたい。 ・携帯の扱いが良し悪しのポイント。大変だがここの取組強化をお願いしたい。 ・改善傾向である。 ・それぞれの短期目標が達成できている。	B
健やかな体	1. 体力の向上 ①全国体力・運動能力調査6項目全国平均以上	○体育科の授業改善・日常生活の中での運動量確保（外遊び・体育朝礼）	1. 体力の向上 ①全国体力・運動能力調査 男子4項目、女子5項目全国平均以上	・年間を通じた運動メニュー（授業始め→ランニング→リズムジャンプ・準備体操）の実施 ・2回目体力テスト（50M走・反復）全国以上 ・「わたしたちの体育」の活用 100% ・体力・運動能力向上プログラムの活用 100% ・体育アンケート：運動が好き92% ・体育朝礼に実施：年6回	①全国体力・運動能力調査（5年）然8項目中 男子：全項目全国平均以下▲ 女子：7項目全国平均以下▲ ▲年間を通じた運動メニューの実施83.3% ○「わたしたちの体育」活用100% ○体力・運動能力向上プログラムの活用100% ○体育アンケート：運動が好き92% ○体育朝礼計画的に実施中	・体力テストの結果を受け、効果的な運動について、体育チームから提案し、各学年実践していく（体育・運動能力向上プログラムを参考に） ・授業時間における運動量の確保（待ち時間の削減等） ・体育朝礼の内容を、日々の運動量増加につながるものにしていく	C	・体力・運動能力向上プログラムの活用が100%にも関わらず、体力の向上がない場合、他の原因もあるのでは？ ・運動が好きな子ども92%を生かして、体育朝礼の充実を図っていただきたい。子どもの要望を取り入れることも大切。 ・市をあげて取り組まないと改善は困難か？！毎朝少しずつでも体操なりエクササイズを実施していくことが必要。 ・始業前や休み時間に運動しているのを見かけるが、全体的には少ないのだろうか。 ・生活環境や生活習慣など、日常的に体を動かす機会が少なくなっている。	C
	2. 生活リズムの確立 ①就寝時刻遵守65%以上 ②ノーメディア達成率65%以上	○生活習慣・メディアに関する意識改革のための取組（あき元気っカード、ネット休みの日） ○養護教諭・栄養教諭による保健指導、食に関する指導、個別の生活指導	2. 生活リズムの確立 ①就寝時刻遵守63%以上 ②ノーメディア達成率60%以上	・生活リズム調査分析・検証年3回 ・担任・養護教諭による生活指導の実施年3回 ・各種通信による保護者への啓発年3回	①就寝時刻遵守67.7%○ ②ノーメディア達成率80.3%○ ⇒1学期は火曜日に固定していたが、家庭の事情（習い事など）に配慮し、2学期より各家庭でネット休みの日を設定して取り組んだ ○生活リズム調査分析検証年3回実施 ○担任・養護教諭による生活指導年3回実施 ○各種通信による保護者への啓発	・調査結果の傾向を基に、重点的に取り組む内容を決める ・家庭に取組の目的や目標、結果を伝え、連携した取組を行う ・SNS等の適切な使用について学習の場を設け、必要に応じて個別の指導を行い、ネット依存の防止に努める	B	・家庭での取組が大きいので、各種通信による保護者への啓発を続けてほしい。 ・保育からの生活も関係してくるので、家庭の協力が不可欠。専門家の講演も必要。 ・目標は達成。 ・メディアとの関わり方のコントロールが重要。	B

豊かな心	1. 豊かな心の育成 ①道徳意識調査：自分にはよいところがある肯定的回答割合の向上	○学校の活動全般や道徳、学級活動を通して自他を認め合う場の設定 ○家庭と連携した道徳教育の推進	1. 豊かな心の育成 ①道徳意識調査：自分にはよいところがある75%	・学校での活動全般、道徳、学級活動を通して、自他を認め合う場の設定 →帰りの会等でのいい所見つけ実施100% →集会や掲示板等の活用年2回以上 ・自己有用感を高める取組の充実 →全校共通の学級活動の実施年3回 →係活動の実施100% →縦割り班活動の充実、集会年3回以上	①道徳意識調査：自分にはよいところがある75.4% ○いい所見つけの実施100% ○集会や掲示板的活用年2回以上実施 ○自己有用感を高めるための学級活動年3回実施 ○係活動の実施 ○縦割り班活動3回実施予定（3回目2月14日予定）	・道徳の公開授業を行う ・家庭と連携した「高知の道徳」の活用を進める ・学級活動、係活動の充実を図り、一人一人が活躍できる場を整える ・いい所見つけや異学年交流、縦割り班活動を活性化させ、様々な人と関わることで仲間意識や自己肯定感を高めていく	B	・異学年交流、縦割り班活動活性化等、仲間意識や自己肯定を高める活動を今後も続けてもらいたい。 ・多様な考え方を踏まえた道徳意識を育ててほしい。友達同士認め合い、褒め合う学級づくりを。 ・自尊心、自己肯定は大事なので、継続をお願いする。 ・家庭での取組、協力が重要。異年齢や地域との交流なども有効だと思う。	B
	2. 生徒指導・特別支援教育の充実 ①Q-Uアンケート：学校生活満足群全校平均70%以上 ②不登校・不登校傾向児童の減少	○どの子にも「分かる」「できる」ユニバーサルデザイン（UD）に基づく授業づくりの取組 ○専門機関との継続的な連携を図る	2. 生徒指導・特別支援教育の充実 ①Q-Uアンケート：学校生活満足群全校平均63%以上 ②不登校・不登校傾向児童の減少：新規不登校0人	・アンケートを用いた予防的生徒指導の実施 →Q-U、学校生活アンケート：分析・検証各年2回 ・合理的配慮を考える視点を持った教員の育成 →UDチェック分析・検証年2回 ・不登校傾向児童の早期発見 →支援会による早期対応実施100%	①Q-Uアンケート：学校生活満足群71.8% ②新規不登校4名（12月末段階）▲ ③各アンケートの実施・分析・検証年2回実施 ○UDチェック分析・検証年2回実施2回目6項目中5項目向上1項目同値（評価の工夫） ○定期的な支援会や必要に応じて臨時に行う支援会等早期にチームで対応してきた	・学校が楽しいと思えるよう、学校・学級のルールの定着を図る ・児童主体の学級活動、学校行事を実施する ・不登校（不登校傾向）の児童に対しては、関係機関とも連携し、早期にチームで対応していく ・各アンケートの実施、分析、検証 ・サポートルーム（仮称）の設置	C	・不登校児童の対応は現状の人員だけで足りているのか検証してみてはどうか。 ・不登校児童について、保・小・中と連携を取りながら、子どもの居場所づくりもさらに進めてほしい。 ・難しい問題だが、更なる取組をお願いする。	B
基盤となる体制等	1. 働き方改革 ①時間外在校時間が月45時間以内を遵守できた教員の割合が増加している	○タイムマネジメント力の向上 ○校務支援員の活用	1. 働き方改革 ①時間外在校時間が月45時間以内を遵守できた教員の割合55% ⇒50%に修正	・定時退勤日の設定（月1回） ・学校行事・会議削減・効率化に向けた検討会（研推）の開催学期に1回 ・夏季休業中に10日以上休暇を取得した教員の割合90%	①時間外在校時間月45時間以内遵守51% ○削減時間（昨年比）9%削減 ▲定時退勤日月1回設定は実効性がなかった ○会議削減等に向けた取組は進行中 ▲夏季休業中に10日以上休暇を取得した教員の割合88%（指定事業に係る研修会参加のため取得できなかった者2名）	・定時退勤日を限定せず、週の中で自分で設定する ・校務支援員、会計年度職員の更なる活用 ・会議の効率化	B	・時間外労働の削減がある程度できているのはよいことだが、それと同時に教員の自己啓発や育成の時間確保も重要である。十分に時間がとれているか。 ・先生が笑顔で元気でいられないと児童も安心して学習を進めることはできない。先生もストレスをためないように、風通しの良い職場づくりを推進してほしい。 ・早期の改善は難しいと思うが、少しずつでも負担軽減を！	B
	2. 防災・安全教育 ①あらゆる災害を想定し、児童が自らの命を守るために必要な知識・技能を身に付け、それを確認できる授業や訓練が実施できている	○家庭や地域と連携した学校安全の取組の充実を図る ○「高知県安全教育プログラム」に基づく防災を中心とした安全教育・安全管理の充実を図る	2. 防災・安全教育 ①あらゆる災害を想定し、児童が自らの命を守るために必要な知識・技能を身に付け、それを確認できる授業や訓練が実施できている	・家庭・地域・関係機関等と連携した安全教育の実施（防災DAYキャンプ・講演会・研究授業等） ・防災アンケート「地震が起きたとき、自分で判断して身を守る行動ができる」肯定的回答1回目より2回目向上	①各学年の防災に関する授業・避難訓練・防災DAYキャンプ、児童の学びの発信等計画的に実施できた ○▲防災アンケート「地震が起きたとき、自分で判断して身を守る行動ができる」肯定的回答1回目より2回目-10.3 ⇒災害や避難行動を学ぶことによって、かえって避難が無事にできるだろうかという不安感が強まっていると考えられる	・今年度作成した年間計画を来年度も実施していく ・地域との合同避難訓練の継続 ・不安を解消するためにどうすればいいかといった「問題意識」をもたせ、減災や防災に主体的に取り組む児童を育成する	A	・防災訓練等安全教育に関しては、かなりしっかりできていると思う。 ・学校一丸となって発達状態に応じた防災活動を進めてきている。特に5年生の取組、発表は素晴らしい。次の学年にもしっかりとつなげてほしい。 ・防災、安全教育はやってやりすぎはないと思うので、積極的に実施していただきたい。 ・災害を想定した訓練や知識を身に付けるための授業が実施できている。 ・PDCAサイクルで意識向上を進めてほしい。	A
	3. 保小中連携 ①保小中の教職員が、連絡会や研修会を通して連携を密にし、相互理解や実践を深めることができている	○架け橋期のカリキュラムをもとに、幼児期の子どもの経験や学びのつながりを意識した教育を実施する ○9年間を見通した学校間連携を推進する	3. 保小中連携 ①保小中の教職員が、連絡会や研修会を通して連携を密にし、相互理解や実践を深めることができている	・年2回の連絡会実施 ・夏季休業中の保育所訪問及び研修会の実施 ・連携教育研究会（小中連携）での実践交流及び共通課題への取組	①計画的な研修と必要に応じた情報交換ができている ○保・小中2回の連絡会実施（2回目2月21日予定） ○夏季休業中の保育所訪問及び研修会の実施 ○小中連携予定通り実施	・保小連携では、教職員間の連携だけでなく、子ども同士の交流を企画していく ・小中連携では、情報交換を密にし、部会ごとの取組を充実させていく	B	・子ども同士の交流を、ぜひとも実行してもらいたい。 ・児童数減少の中、子ども同士の交流は大切である。チーム芸芸で取組を進めてほしい。 ・計画的に研修、情報交換ができている。 ・少子化や個別支援、保小統合など、増々の連携が必要だと思う。	B
	4. 家庭・地域との協働体制の確立 ①参観日、学校行事等への平均参加率85%以上継続 ②学校評価アンケート 保護者「保護者地域の意見を聞き、学校運営に生かしている」肯定群85%以上 ③地域学校協働本部事業年間45回以上	○各種通信、すぐー等での情報提供による参加促進 ○年間活動計画に沿って実施	4. 家庭・地域との協働体制の確立 ①参観日、学校行事等への平均参加率85%以上 ②学校評価アンケート 保護者「保護者地域の意見を聞き、学校運営に生かしている」肯定群80%以上 ③地域学校協働本部事業年間40回以上	・メール配信システム「すぐー」等を活用し、情報提供を行い、保護者の利便性を高める ・地域コーディネーターとの連携強化 ・学級通信・学校だよりの発行 ・学校運営協議会年3回の開催	①参観日・学校行事への参加率86% ②学校評価アンケート：保護者「保護者地域の意見を聞き、学校運営に生かしている」肯定群78%▲（昨年度と同じ） ③地域学校協働本部事業年間40回（1月末時点） ○メール配信システム「すぐー」等を活用し、迅速かつ確実に保護者に情報を伝えることができた。 ○地域COとの定期的な情報交換実施 ○学級通信の発行回数増加 ○学校運営協議会年3回実施予定（3回目2月25日予定）	・すぐーのアンケート機能を活用することで、学校評価の回答率も向上している（今年度4%増）今後も積極的に情報提供ができるようにする ・地域COを窓口に、地域との連携を増やしていく（総合的な学習の時間等） ・アンケートの声を学校運営に反映できるよう、PTA・学校運営協議会ともさらに連携していく	B	・メール配信システムによる情報提供を行っているが、学校のホームページ上でのリアルタイムの情報提供等ができるようにはならないか。 ・すぐーの取組をさらに強化し、続けてほしい。 ・メール配信システムを活用し、保護者への迅速な対応ができている。 ・学校には情報発信等を積極的に行っていただき、協働体制づくりを進めてほしい。	B
不祥事防止等	1. 不祥事を生じさせない職場風土づくり ①具体的事例を挙げての服務研修の実施 ②不祥事チェックリストの実施	○風通しの良い、不祥事を生じさせない職場風土を構築するとともに、教育公務員として法令遵守の意識を高める	1. 不祥事を生じさせない職場風土づくり ①具体的事例を挙げての服務研修の実施 ②不祥事チェックリストの実施	・服務研修 学期に2回 ・不祥事チェックリスト学期に1回 ・ブロック会・メンター会を活用し、支援し合える職場づくりを行う ・不祥事防止委員会学期に1回 ・学校運営協議会への報告・協議	①学期に2回の不祥事防止研修実施 ②不祥事チェックリストの実施 ○不祥事防止に関するアンケートの実施 ⇒自分事として考え、職場で共有していく ○不祥事防止委員会学期に1回実施 ○学校運営協議会への報告・協議実施	・不祥事を起こす要因となるもの（多忙化・孤立等）を排除するよう、助け合い・学びあえる職場風土を築いていく ・学年会、ブロック会、メンター会等小グループの関わりの中で、困り事や心配事を言える場を作る	B	・風通しのよい職場風土づくりは、そのまま風通しのよい学校（生徒）づくりとなると思うので、頑張ってよい職場を形成維持してもらいたい。 ・ストレス発散の場づくり、一人で悩みを抱え込まない職場づくりを。	B

